

「福生市立学校の学力向上策」活用推進リーフレット

学力を着実に育む授業実践

平成30年3月
福生市教育委員会

はじめに

新学習指導要領が平成29年3月に公示され、まもなく1年が経とうとしています。今回の改訂ポイントの一つは「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善です。今までも様々な学力調査等を活用した授業改善を推進してきましたが、これからは各学校の実態に応じて、目指す資質・能力を明確にした授業改善が求められています。

福生市教育委員会では、平成28年3月に「福生市立学校の学力向上策」、翌年6月には「福生市立学校の学力向上策（第2次）」を策定し、本市における学力についての考え方や、学力向上に必要な学校経営の在り方、授業スタイル等について明確にしました。

本市の学力向上推進委員会では、学力向上を図るためには、本策の活用をさらに行う必要があると考え、「第3章 II 学力を着実に育む授業者7つの取組」に焦点を当て、2つのグループに分かれて授業研究を行いました。本リーフレットはその研究の成果として取りまとめたものです。

「福生市立学校の学力向上策（第2次）」の補充資料として、本リーフレットを校内研修やOJT等で活用し、各学校における授業改善の一層の推進を図ってくださるよう期待しています。

平成30年3月 福生市教育委員会

1 本リーフレットの活用について

- 実践事例の見方
- 本リーフレットの活用場面

2 実践事例 1

『福生市立学校の学力向上策』「II 学力を着実に育む授業者7つの取組（2）（3）」から
「身に付ける力を明確にして授業計画を策定し、教えることと
考えさせることを区別して指導を充実させる取組例」

3 実践事例 2

『福生市立学校の学力向上策』「II 学力を着実に育む授業者7つの取組（4）」から
「タブレット等、ICT機器の効果的な活用に関する取組例」

1 本リーフレットの活用について

■ 実践事例の見方

2 実践事例 1

【福生市立学校の学力向上策「1」】「学力を確実に育む授業7つの取組」(2) (3) から
「身に付ける力を明確にして授業計画を策定し、教えることと考へさせることを区別して指導を充実させる取組例」

授業計画策定の流れ

身に付ける力の明確化

【学校教育目標】

【学校全体で育成を目指す資質・能力】

【各教科等で育成を目指す資質・能力】

単元計画の策定

主に教えること
○習得すべき基礎的・基本的な知識及び技能
○思考力
○言語活動の仕方、話し合いの場など

主に考へさせること
○思考力、判断力、表現力等を育成するための言語活動にふさわしい課題

指導方法の工夫
(主体的・対話的で深い学びのために)
○授業展開や時間配分、学習形態の工夫
○様々な教材やICTの活用
○学習の促進し、振り返りの工夫 など

実践事例 第1学年数学「比例と反比例」
(福生第一中学校の例)

【学校教育目標】
「授業」で思いやりのある人をめざし、
○進んで学び、よく考えよう
正しく判断し、実行しよう

【福生一中で育成を目指す資質・能力】
目的に応じて情報を取捨選択しながら
自分の考えをもち、尊重と協働して課題に
取り組む力 (知的探究力など)

【福生一中で数学科で育成を目指す資質・能力】
事象を数学的に解釈して自分の考えをもち、
数学的な表現で他者と話し合いながら
課題に取り組む力

主に教えること
○関数関係の意味、比例、反比例の関係を理解し、
比例、反比例の関係をグラフで表すこと
を学ぶこと

主に考へさせること
○身の回りの問題を比例、反比例の関係をグラフで表すこと
を学ぶこと

指導方法の工夫
○エピソードによる生徒の理解
○数学的視点に基づきグループでの話し合い
○ワイヤークラフト(実物)による導入
○学習課題や授業の進捗の視覚的表示
○ヒートマップによる個別の支援 など

実践事例 第1学年数学「比例と反比例」

(福生第一中学校の例)

1 単元の目標

主に「教えること」による目標
○関数関係の意味や比例、反比例、座標の意味を理解することができる。
○比例、反比例を式、表、グラフなどで表すことができる。
○比例、反比例と使われる二つの数量について、表・式・グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見出すことができる。

主に「考へさせること」による目標
○比例、反比例を用いて具体的な事象を探求し、表現することができる。

2 単元の指導計画(2項・3項の主な学習内容は省略)

項	項目	時数	主な学習内容
1 第1 関数	4 葉の扉	1	○行列の持ち時間を予想するために、どんなことが分ればよいかを考える。 ○1人がボットコインを買うのにかかる時間を一定と見て、並んでいる人数から待ち時間を予想する。 ○関数の意味を知る。 ○変域の意味と表し方を知る。 ○変域を、不等号を使って表す。
	関数	1	○2つの数量の間に関数の関係があるかどうかを調べる。 ○関数の関係は「は—は—の関係である」という言い方で表す。 ○と区別して変わる2つの数量の間の関係を、表や式で表す。
2 第2 比例	時間と道のりの関係は?	1	ここでは便宜的に1単位時間ごとに「教えること」を考へさせること」を色分けし、区別し、 「主体的・対話的で深い学び」には、必ずしも1単元の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材などの内容や時間とのまじり合いによって、再考(後編)の学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場と教師が教える場をどのように組み立てるか、といった観点で授業の準備を進めることが重要である」と示されている。
	比例のグラフ	3	○身のまわりの問題を、比例の関係をグラフで表すこと。
3 第3 反比例	反比例する量	2	○身のまわりの問題を、反比例の関係をグラフで表すこと。
	反比例のグラフ	2	○身のまわりの問題を、反比例の関係をグラフで表すこと。
4 第4 比例と反比例の利用	反比例の表、式、グラフ	2	○身のまわりの問題を、反比例の関係をグラフで表すこと。
	基本の問題	1	○身のまわりの問題を、反比例の関係をグラフで表すこと。

単元目標を達成するために、実践した取組が単元計画上のどこに位置付けられているのか明確にしました。

本時の目標を達成するために、学力向上策の取組の必要性を記しています。

学力向上推進委員会において実践した「福生市立学校の学力向上策(第2次)」に記載してある取組名と、具体的に実践するための流れや留意点等について示しています。

実際の研究授業でポイントとなった点について、実際の画像を用いて分かりやすく示しました。

3 本時の目標(全20時間中の第18時)

主に「教えること」による目標
○身近な問題を、比例の関係をグラフで表すことができるようにする。
○数量の関係を一般化するよきに気付くことができる。

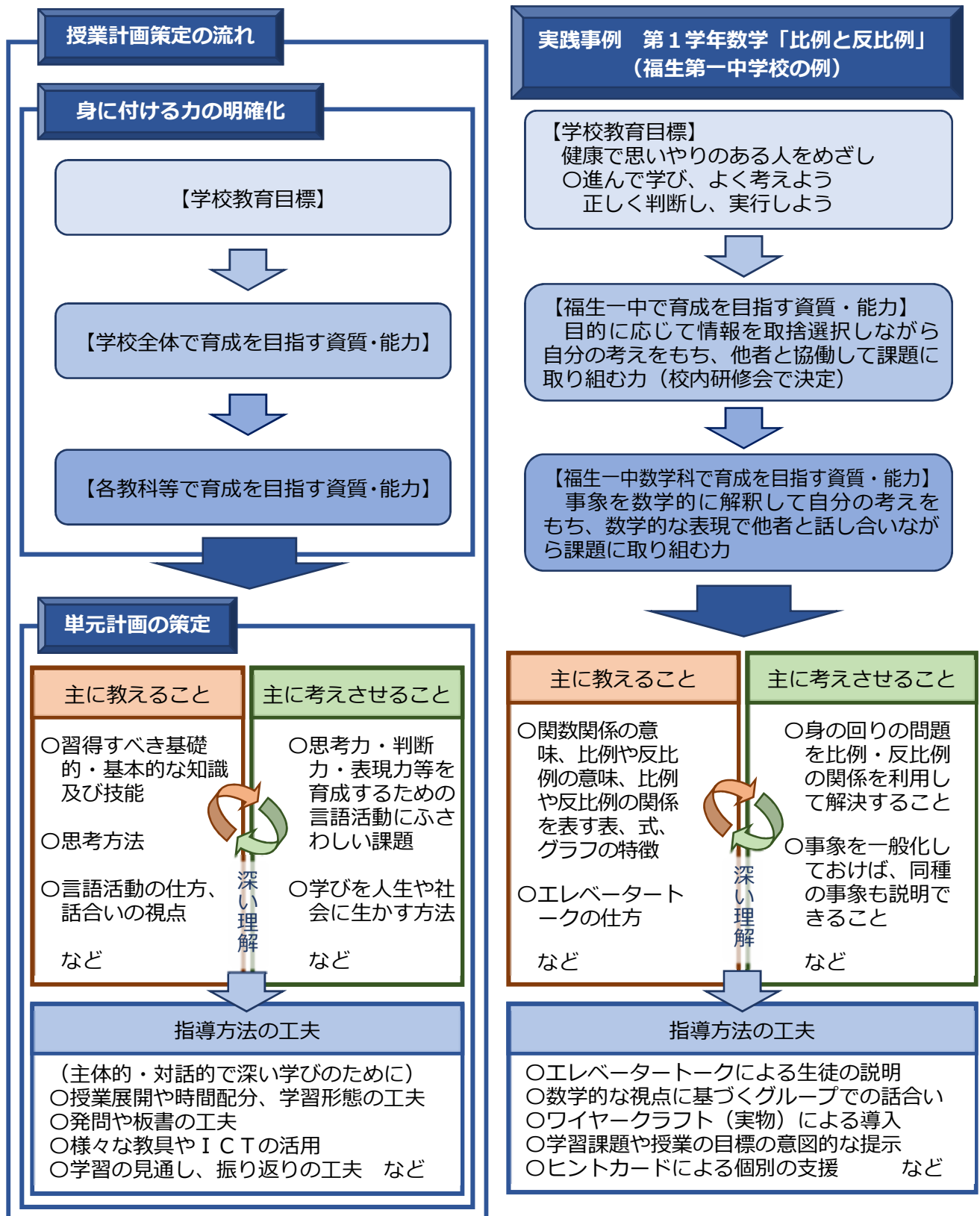
4 本時の展開

時間	学習内容と学習活動	指導上の留意点	評価標準(評価方法)
導入 1 10 分	○学習課題を理解する。 ・文化祭でワイヤークラフトを販売することにした。100個作るには、どれくらいの長さのワイヤークラフトを準備すればよいか。 ○本時の目標を共有する。 「購入するワイヤークラフトの長さを工夫して求めよう」 ○答えを出すために、どんな情報が必要か考える。 ・ワイヤークラフト1個に使用するワイヤークラフトの長さ ・ワイヤークラフト1個の質量 ・1m分(1cm分)の質量 ⇒ 単位質量	○学習課題に物性をわたせることで解を求める必要性を生徒に感じさせる。 ○ワイヤークラフトの実物を見て生徒の興味関心を引く。 ○生徒から思いつくように発言が出れば、教師がコメントを出す。	○具体的な事象を比例や反比例の関係で表すことに興味をもち、それらを利用して問題を解決しようとしている。 ○「考へさせること」の指導に重点をおくが、生徒の実態に合わせて考え方を教えることも必要だと見える。
展開 3 0 分	○必要な情報を得る。 秤でワイヤークラフトの質量などを測る。 ワイヤークラフト1個に使用するワイヤークラフトの長さ 余ったワイヤークラフト、1m ⇒ 1.5g ○得られた情報を使って、解法を考える。 ・長さに焦点を当てた考え方 ・質量に焦点を当てた考え方 ・単位質量を当てて考えるか ○グループでエピソードを行う。 ・持ち時間1人1分(最後は30秒で行っている)。 ・発表順番は12月スタートの誕生日順 ○最もよいと思われる解法をグループで1つ選ぶ。 ・選び方の視点: 効率よさ、説明のしやすさ ○班で選んだ解法を発表する。 代表者が全体に向けてエピソードを行う。 考え方が一つではないことを知る。	○自力解決の時間と、周りと相談させない。 ○エピソードトークに向けた説明も考へさせよう。 ○話し合いのグループは4人を基本とする。 ○全班ではなく、考え方の違った数組を指名して発表させる。 ○個別では難しいと考えられるので、グループで考へさせる。 ○全班ではなく、考え方の違った数組を指名して発表させる。	○具体的な事象を比例や反比例の関係で表す。それらを利用して問題を解決できる。 ○「考へさせること」の指導に重点をおくが、生徒の実態に合わせて考え方を教えることも必要だと見える。
まとめ 1 0 分	○問題解決。 ①250個作る場合、何mのワイヤークラフトが必要か。 ②ワイヤークラフトが264.04mあったら、ワイヤークラフトはいくつ作ることができるか。 ⇒ 205.0個 ○問題を比較の式に一般化してあげれば、関連の問題を簡単に解くことができることを確認する。	○事前に自分たちが作った式を使って考へさせようというように促す。 ○一般化のよさを実感させる。	○具体的な事象を比例や反比例の関係で表す。それらを利用して問題を解決できる。 ○「考へさせること」の指導に重点をおくが、生徒の実態に合わせて考え方を教えることも必要だと見える。

2 実践事例 1

『福生市立学校の学力向上策』「Ⅱ 学力を着実に育む授業者7つの取組 (2) (3)」から

「身に付ける力を明確にして授業計画を策定し、教えることと考えることを区別して指導を充実させる取組例」



実践事例 第1学年数学「比例と反比例」
(福生第一中学校の例)

1 単元の目標

主に「教えること」による目標	<ul style="list-style-type: none"> ○関数関係の意味や比例、反比例、座標の意味を理解することができる。 ○比例、反比例を式、表、グラフなどに表すことができる。 ○比例、反比例と捉えられる二つの数量について、表・式・グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見出すことができる。
主に「考えさせること」による目標	<ul style="list-style-type: none"> ○比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し、表現することができる。

深い理解



2 単元の指導計画 (2節・3節の主な学習内容は省略)

節	項	時数	主な学習内容
1節 関数	4章の扉	1	<ul style="list-style-type: none"> ○行列の待ち時間を予想するために、どんなことが分かればよいかを考える。 ○1人がポップコーンを買うのにかかる時間を一定と考えて、並んでいる人数から待ち時間を予想する。
	関数	1	<ul style="list-style-type: none"> ○関数の意味を知る。 ○変域の意味と表し方を知る。 ○変域を、不等号を使って表す。
		1	<ul style="list-style-type: none"> ○2つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断する。 ○関数の関係を「～は…の関係である」という言い方で表す。 ○ともなって変わる2つの数量の間に関係を、表や式に表す。
2節 比例	時間と道のりの関係は？	1	<p>ここでは便宜的に1単位時間ごとに「教えること」「考えさせること」を色分けし、区別したが、「学習指導要領解説 総則編(77頁)」には、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して、例えば(省略)、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。」と示されている。</p>
	比例する量	2	
	比例のグラフ	3	
	比例の表、式、グラフ	1	
	基本の問題	1	
3節 反比例	反比例する量	2	<p>ここでは便宜的に1単位時間ごとに「教えること」「考えさせること」を色分けし、区別したが、「学習指導要領解説 総則編(77頁)」には、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して、例えば(省略)、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。」と示されている。</p>
	反比例のグラフ	2	
	反比例の表、式、グラフ 基本の問題	2	
4節 比例と反比例の利用	比例と反比例の利用	1	○身のまわりの問題を、比例の関係を利用して解決する。(本時)
		1	○身のまわりの問題を、反比例の関係を利用して解決する。
		1	○身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決する。 ○比例のグラフから、具体的な事象を読みとる。


3 本時の目標 (全20時間中の第18時)

『学力向上策』

主に「考えさせること」による目標	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な問題を、比例の関係を利用して数学的に考えられるようにする。 ○数量の関係を一般化するよさに気付くことができる。
------------------	--

- (2) 「事象を数学的に表現し、比例の関係を求める」
- (3) 単元指導計画に基づき、考えさせる

4 本時の展開



本時が「教えること」の指導に重点をおく場合、学習課題や本時の目標に「比例（もしくは反比例）の考え方を利用して」のような習得させたい事項を盛り込んで生徒に明示する。

しかし、本時はこれまでに習得した知識及び技能を活用して「考えさせること」に重点をおくため、どのような考え方をを用いるか限定せずに目標を示し、思考の自由度を上げる。



「エレベータートーク」とは自分の考えを30秒～1分程度で相手に理解してもらえようように説明する言語活動である。短時間で詳しく説明するためには自分の考えをしっかりと持ち、それを十分に理解したうえで、どのように説明したら分かりやすいかを事前に考えておかなければならない。

本時では、この活動を通して、「数学的な表現で他者と話し合いながら課題に取り組む力」を育成する。

学習内容と学習活動	
導 入 1 0 分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭でワイヤークラフトを販売することにした。100個作るにどれくらいの長さのワイヤーを購入すればよいか。 ○本時の目標を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> 「購入するワイヤーの長さを工夫して求めよう」 ○答えを出すために、どんな情報が必要か考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワイヤークラフト1個に使用するワイヤーの長さ ・ワイヤークラフト1個分の質量 ・1m分(1cm分)の質量 ⇒ 単位質量 ○必要な情報を得る。 <ul style="list-style-type: none"> 秤でワイヤークラフトの質量などを測る。 ワイヤークラフト ⇒ 92g 余ったワイヤー2.1m ⇒ 15g
展 開 3 0 分	<ul style="list-style-type: none"> ○得られた情報を使って、解法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・長さに視点を当てた考え方 ・質量に視点を当てた考え方 ・単位質量をいくつとして考えるか ○グループでエレベータートークを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・持ち時間1人1分(普段は30秒で行っている。) ・発表順番は12月スタートの誕生日順 ○最もよいと思われる解法をグループで1つ選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・選び方の視点：効率のよさ、説明のしやすさ ○班で選んだ解法を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 代表者が全体に向けてエレベータートークを行う。 考え方が一つではないことを知る。 ○選んだ考え方をを使い、作るワイヤークラフトの数をx個、必要なワイヤーの長さをymとして、比例の式を作る。⇒ $y = 12.88x$ or $y = 12.88x$ ○作った式を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 前の発表で考え方が違った班でも、最終的に作られた式は等しくなることを確認する。
ま と め 1 0 分	<ul style="list-style-type: none"> ○問題を解く。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 250個作る場合、何mのワイヤーが必要か。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 3220m (2) ワイヤーが26404mあったら、ワイヤークラフトはいくつ作ることができるか。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 2050個 ○問題を比例の式に一般化しておけば、関連の問題を簡単に解くことができることを確認する。




効率的な見方・考え方を働かせて話し合い活動ができるよう、教師が合いの視点や採の基準を教える必要がある。

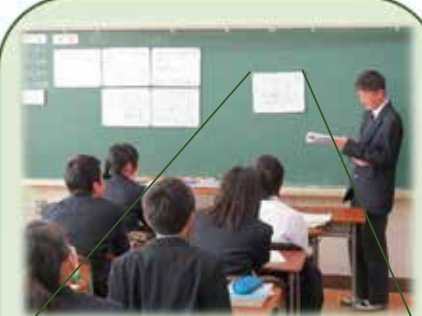
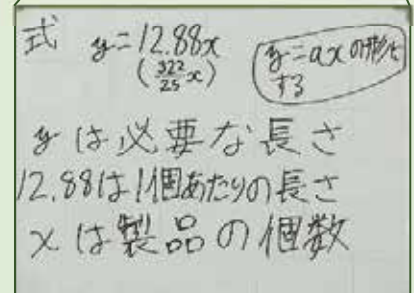
(2) 身に付ける力の明確化」「(3) 教えること考えさせることを明確にした指導の充実」との関連

的に解釈して自分の考えをもち、数学的な表現で他者と話し合いながら課題に取り組む力」を身に付させるため、を利用して身近な問題を考えさせたり、エレベータートークで自分の考えを説明させたりする。
 面に基づき、本時はこれまでに教師が教えてきた比例と反比例に関する基礎的・基本的な知識及び技能を生徒に活用させること」すなわち「身のまわりの問題を、比例の関係を利用して解決すること」を指導する。

	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
に、	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題に物語性をもたせることで解を求める必要性を生徒に感じさせる。 ○ワイヤークラフトの実物を見せて生徒の興味関心を引く。 ○生徒から思うように発言が出なければ、教師がヒントを出す。 ○時間の関係上、教師が代表として測り、測定値を生徒に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な事象を比例や反比例の関係で捉えることに関心をもち、それらを利用して問題を解決しようとしている。【数学への関心・意欲・態度】(発言・ノート)
的方合る話選えと	<ul style="list-style-type: none"> ○自力解決の時間とし、周りと相談させない。 ○エレベータートークに向けた説明も考えさせておく。 ○話合いのグループは4人を基本とする。 ○全班ではなく、考え方の違った数班を指名して発表させる。 ○個別では難しいと考えられるので、グループで考えさせる。 ○全班ではなく、考え方の違った数班を指名して発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な事象を比例や反比例の関係で捉え、それらを利用して問題を解決できる。【数学的な見方や考え方】(観察・ノート)
こと	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に自分たちが作った式を使って考えるとよいことに気付けるように声かけする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な事象を比例や反比例の関係で捉え、それらを利用して問題を解決できる。【数学的な見方や考え方】(ノート)
でき	<ul style="list-style-type: none"> ○一般化のよさを実感させる。 	



問題を自力解決できない生徒には「ヒントカード」を配布し、個別の支援をする。
 本時は「考えさせること」の指導に重点をおくが、生徒の実態に合わせて考え方を教えることも必要だと言える。

本時の目標の一つである「数量の関係を一般化するよさに気付く」ことができるよう、学習課題を通して作った式(上写真)を使わせ、まとめの部分で別の問題に取り組ませる。
 この時間を確保するため、展開の部分ではいくつかの班に絞って発表させる。

3 実践事例 2

『福生市立学校の学力向上策』「Ⅱ 学力を着実に育む授業者7つの取組(4)」から

「タブレット等、ICT機器の効果的な活用取組例」

教育効果をあげるためのICT活用の計画

① 学習目標を確認する。

② ICTの利点を踏まえた活用場面を検討する。

③ 効果的な授業展開を検討する。

④ 実施後、ICT活用の効果を検証する。

教材等を分かりやすく説明することができる

・写真や図表、実物や考え方を大きく映して説明することで興味や関心を高め、視線が集まり指示が明確になる。

- 小学校 算数：分度器の目盛りに注目させる。
- 小学校 家庭科：手元の動きを繰り返して見せる。
- 中学校 国語：作文の文例や手本として文章に注目させる。
- 中学校 社会：地図と合わせて航空写真を見せ、実際の地形を確認する。

活動を映像・画像として記録することができる

・ペアワークや運動実技を行うときに、活動やその様子を撮影・録画し記録することができる。短時間に簡単に録画でき、再生にも時間をとらないため、良いものをすぐに紹介して児童・生徒の活動内容の向上につなげることができる。一瞬で終わってしまう活動の様子を何度も繰り返して提示して振り返ることもできる。

- 小学校 体育：ティーバッティングの正しいフォームの確認をする。
- 小学校 理科：実験の様子や結果を映像として記録する。
- 中学校 英語：ALTが不在の場合の発音練習を映像で行う。
- 中学校 美術：作品を制作していく過程を記録する。

理解を深めることができる

・口頭による説明だけではイメージしにくい部分についてアニメーション等を提示し、それに対して意見を出し合う学習活動ができる。また資料について自分の考えをノートに書かせ、書画カメラ等でノートを拡大提示しながら話し合ったりすることなどを通して、児童・生徒の思考や理解をより深める学習活動ができる。

- 小学校 算数：図形の移動をアニメーションでイメージしながら確認する。
- 小学校 家庭科：ミシンの使い方や準備を映像をみて確認する。
- 中学校 理科：月の動きを映像をみて、わかることをグループで意見を出し合う。
- 中学校 数学：表からわかることをノートに書かせ、書画カメラを用いて説明させる。

留意事項


- ・ICT機器の活用については「手段」であることを忘れずに、導入や課題提示の場面をしばって活用を考えたり、中心となる学習活動のねらいや内容を踏まえて、必要に応じて積極的に活用することが重要である。
- ・照明や角度、姿勢等の学習環境に配慮を欠かさないようにする。

実践事例 第6学年外国語活動「Turn right」
(福生第四小学校の例)

1 単元の目標

- 積極的に道を尋ねたり、道案内したりしようとする。(ア)
- 目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。(イ)
- 英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付く。(ウ)

2 単元の指導計画

時	目標と主な学習活動	指導上の留意点	評価
1	<p>町中にある様々な建物などの言い方を知り、日本語との違いに気付くとともに、道案内の言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○「What's this?ゲーム」絵カードを見て、それが何か答えながら、建物の言い方を知る。 ○「おはじきゲーム」 ○「方向音痴ゲーム」 ○振り返りと終わりの挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の様子で気付いたことを尋ねる。 ・乗り物、ポストの色や形、スクールバスなど、日本と似ている点や違う点を話し合わせる。 ・はじめはゆっくり行い、慣れてきたらスピードを速くするなど、楽しめる工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での建物などの表し方の特徴や、日本語との違いに気付いている。(ウ) ・This is a～や店、建物、施設などの表現について、聞き取るようとしている。(イ)
2	<p>建物などの言い方や、目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○「What's this?ゲーム」 ○「Simon Says (サイモン・セズ) ゲーム」 ○「Let's Listen」 ○振り返りと終わりの挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはゆっくり行い、慣れてきたらスピードを速くするなど、楽しめる工夫をする。 ・日本語で自由に感想を言えるようにする。 ・楽しく活動できたことをほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の方向を示す言葉を聞き取りながら、進んで会話しようとしている。(ア) ・Go straight. Turn left / right.などの指示を聞いて、行動しようとしている。(イ)
3 (本時)	<p>目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○「Simon Says (サイモン・セズ) ゲーム」 ○「どこにあるのかな?」指導者の道案内を聞き、ワークシート上に絵カードを置いて地図を作る。 ○ペアになり、地図上の空欄に置いた建物の位置を道案内で教え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはゆっくり行い、慣れてきたらスピードを速くするなど、楽しめる工夫をする。 ・T1とT2で活動の進め方についてデモンストレーションを行う。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; display: inline-block;"> 主なICTの活用 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地への行き方を尋ねたり言ったりしている。(イ) ・学習した表現を活用しながら、進んで会話しようとしている。(ア)
4	<p>相手意識をもって目的地への行き方を尋ねたり、わかりやすく道案内したりしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○「Let's Chant」 Where is the station? ○「友達を案内しよう①」ワークシート ○「友達を案内しよう②」教室を町に見立てて道案内をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できていない児童や積極的に参加できない児童と一緒に活動し、英語でのコミュニケーションを楽しめるようにする。 ・状況に応じて3人～4人組にし、子ども達同士で教え合いながら活動を楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって目的地への行き方を尋ねたりわかりやすく案内したりしている。(ア) ・Go straight. Turn left / right.などの表現を使って、道を聞いたり教えたりしようとしている。(イ)

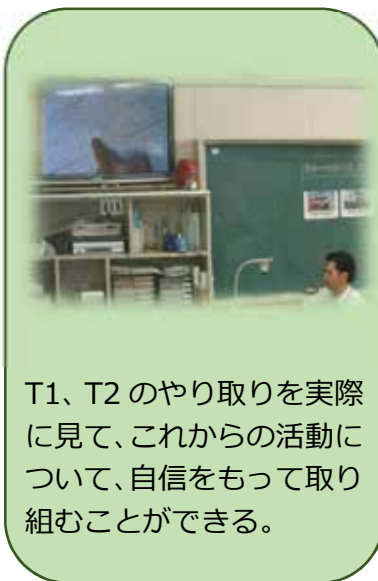
3 本時の目標（全4時間中の第3時）

目的地への行き方を尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。

- ・導入場面において、タブレット
- ・展開場面において、書画カメラ





4 本時の展開


本時における ICT の活用
① 書画カメラを活用し指示を明確にする。 → 写真、図表、実物や考え方を大きく写す。
③ ALT の発音の様子を動画で提示する。 → 映像を繰り返し提示することで、口の形や音等を確認する。
② タブレットのカメラ機能で学習活動を映像・画像として記録する。 → 学習の様子を即時に提示し振り返りを行うことで、理解を深める。




	○主な学習内容	◇留意事項
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 Hello. I'm~. How are you? ○フォニックスを行う。 ○単語の復習をする。 ○新出英文の確認をする。 Where is the~ ○「Simon Says (サイモン・セズ) ゲーム」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇児童全員が声を出せる。 ◇全員が口を開けて発音に呼びかける。 ◇アクティビティで使用する。 ◇新出英文を確実に言わせる。 ◇はじめはゆっくり行いスピードを速くするなど。 ◆目的地への行き方を確認している。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 「地図を作って英語で友だちを案内しよう。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #fff9c4;"> <p>【学習活動「どこにあるのかな？」】 ○ペアになり、案内役と案内を受ける役を決める。 ○案内を受ける人は、案内役から英語で道案内を聞き、自分の白地図 (Fussa Map) の上にその絵カードを置いて地図を作る。 ○それぞれが交代し、地図上の空欄に置いた建物の位置を道案内で教え合う。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◇「What's this?ゲーム」前時に学習した表現をさらに発展した表現をさせる。 <div style="text-align: right;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇T1 と T2 がペアとなり、デモンストレーション ◇T2 は机間指導をし ◇代表児童：道案内をして T1 : Fussa Map の地図を作る。 ◆学習した表現を活用して話しようとしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ○T1 が案内役になり道案内をする。児童はペアになり、協力して地図をつくる。 ○代表児童と T1 でデモンストレーションを行う。 ○ペアになり、地図上の空欄に置いた建物の一つを道案内で教え合う。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りと終わりの挨拶をする。 Good bye~. See you. 	<ul style="list-style-type: none"> ◇今日の活動について話させる。

タブレットに録画した ALT がフォニックスを行っている様子をテレビ画面に映し、発音・書き取り練習で活用する。
 iPad で机上の地図をテレビ画面に拡大して映し、実際の取り組みの様子を確認する。

◆評価	ICT 機器の活用
<p>るように呼びかけ</p> <p>音・発声できるよう</p> <p>う既習の単語練習を</p> <p>えるようにする。</p> <p>い、慣れてきたらス</p> <p>、楽しめる工夫をす</p> <p>尋ねたり言ったりし</p>	 <p>○あらかじめ ALT がフォニックスを行っている様子を iPad で撮影しておき、それをフォニックスの練習の時に見せる。</p>
<p>ム」の様子を見て、</p> <p>思い出し、本時では</p> <p>学習することを知ら</p>  <p>なり、書画カメラを用</p> <p>ーションを行う。</p> <p>ながら支援する。</p> <p>する。</p> <p>の上に絵カードを置い</p> <p>しながら、進んで会</p>	<p>○前時の活動の様子をビデオで振り返る。</p>  <p>○実際のやり取りを、書画カメラを用いて、分かりやすく説明する。</p> <p>○積極的に活動できているペアをビデオにとり紹介していく。</p> 
<p>振り返りカードを書</p>	



ALT のフォニックスの様子を 1 度録画すれば、ALT が不在のときでも、ALT と同じ質のフォニックスを行うことができる。



前時の様子をビデオで振り返ることで、時間の短縮にもなり、全員が確実に思い出すことができる。

友達の活動の様子をみて、自分たちのとの違いに気付いたり、共通点を見つけたりしながら、意欲向上につなげる。

平成 29 年度 学力向上推進委員会 委員名簿

※敬称略

	役 職	氏 名	所属等
1	委員長	山本 豊彦	福生第一中学校長
2	副委員長	高橋 博幸	福生第三小学校長
3	委 員	工藤 大典	福生第一小学校主任教諭
4	委 員	井下 知紀	福生第二小学校教諭
5	委 員	後藤 真輝	福生第三小学校教諭
6	委 員	星野 早苗	福生第四小学校主任教諭
7	委 員	拝原 奈穂実	福生第五小学校主幹教諭
8	委 員	古井 進	福生第六小学校主幹教諭
9	委 員	吉成 亮	福生第七小学校主任教諭
10	委 員	古川 裕平	福生第一中学校主任教諭
11	委 員	小林 義知	福生第二中学校主任教諭
12	委 員	岡部 輝久	福生第三中学校主任教諭

なお、福生市教育委員会事務局では、次の者が本書の作成に当たった。

福生市教育委員会教育部参事兼教育指導課長事務取扱	井尻 郁夫
教育指導課統括指導主事	林 宣之
統括指導主事	千葉かおり
指導主事	森保 亮
指導主事	鈴木 輝
指導係長	高波 徹
指導係	山口 真代

平成 27・28・29 年度
東京都教育委員会
学力ステップアップ推進地域指定事業

平成 30 年 3 月 31 日発行
編集・発行 福生市教育委員会教育部教育指導課
所在地 東京都福生市本町 5 番地
電 話 042-551-1538